



施 策

7 家庭・地域の教育力の向上

施策の柱

(1) 家庭や地域への支援

細施策

①家庭教育の支援

■ 現状と課題

- 家庭教育は、すべての教育の出発点であり、こどもたちの生活習慣の形成や自己肯定感や自立心を育成し、心身の発達を図る上で重要な役割を担っていますが、近年は家庭環境の多様化や地域コミュニティの希薄化により、家庭を取り巻く社会状況は大きく変化しています。
- 時代や社会情勢の変化に応じた家庭教育講座や家庭教育学級の実施方法を検討する必要があります。

■ 細施策の方向性

担当課

地域教育支援課

- 乳幼児の親や児童生徒の保護者を対象に、こどもの成長・発達段階に応じた家庭教育に関する学習機会の提供を図ります。
- 小・中学校で実施している家庭教育学級の開催を支援します。
- 家庭教育に関する情報発信の充実を図り、効果的に発信することで、家庭の教育力の向上を目指します。

細施策の指標

活動指標	説明	現状値(令和6年度)	令和12年度
家庭教育の支援	幼・保・高家庭教育講座、親の学習講座、PTA家庭教育学級運営講座を開催	家庭教育の向上のため、各種講座の開催により学習の機会の提供を図ります。	

※家庭教育学級：保護者が親としての役割や責任を自覚するため、一定期間継続して、家庭における望ましい生活習慣や倫理観などを学ぶための活動。

②社会教育関係団体への支援

■ 現状と課題

- こどもたちの学習や体験活動の充実を図り、地域ぐるみでこどもたちを育てていくため、子ども会育成団体連絡協議会や PTA 联合会等の社会教育関係団体の活動を支援しています。
- 少子化や共働き世帯の増加など、社会環境の変化に合わせた団体への支援方法等について、引き続き検討する必要があります。

■ 細施策の方向性

担当課

地域教育支援課

- 子ども会育成会活動の充実・活性化のため、川越市子ども会育成団体連絡協議会との共催により、人材育成及び資質向上のための事業の実施を図ります。
- 保護者や教職員が共に学ぶ講演会や研究会を通じて、さまざまな立場の方がつながる機会を設け互いに支え合いながら情報を発信していきます。
- 社会教育関係団体の活動や抱えている課題等を把握すると共に、必要な支援を行います。

細施策の指標

活動指標	説明	現状値(令和6年度)	令和12年度
各社会教育団体への支援状況	子ども会育成会活動や PTA 活動への支援の状況	社会教育関係団体の活動の継続と活性化のため、子ども会育成会活動への支援（新育成者研修会、ジュニアリーダースクール、ジュニアリーダー野外学習の開催）や PTA 活動への支援（PTA 講演会、PTA 研究集会、高等学校を知る会の開催）などを通じて、学習の機会を提供します。	

③地域の教育活動への支援

■ 現状と課題

- 公民館では、社会教育の推進のため、公民館登録グループが主体となって、公民館まつりや公開講座等を開催しています。
- 公民館は社会教育の拠点として地域活動の支援が期待されていますが、地域住民の高齢化や人々のライフスタイルの変化により地域組織や行事の担い手が不足しています。地域の教育力を向上させるには、地域で活動している団体を支援することや人と人とのつながりを深める機会を創出することが重要です。

■ 細施策の方向性

担当課

中央公民館

- 地域の教育活動を充実させるため、社会教育の推進を担う各団体が円滑に活動できるよう支援します。また、公民館が地域住民をむすぶ場として機能を果たし、住民が学びの成果を広く共有し、地域コミュニティの活性化を図ります。
- 公民館事業を通じて、公民館を拠点とした地域の教育活動の担い手の育成を図るとともに、公民館講座に地域人材を積極的に活用し、地域のネットワークづくりを推進します。

細施策の指標

指標	説明	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
地域人材登用率(%)	地域人材を登用した公民館講座の割合	40.9	50

施策の柱

(2) 家庭・地域・学校の連携・協働

細施策

①コミュニティ・スクールの推進

■ 現状と課題

- 管理職等を対象にした研修会や、かわごえミドルリーダー研修会でコミュニティ・スクールの役割等や、各校の効果的な事例等について共有しています。
- 各学校において取組の進捗に差があるため、各地域で継続的に参画できる人材や地域と学校をつなぐコーディネーターの確保や発掘の必要があります。

■ 細施策の方向性

担当課

学校管理課、地域教育支援課

- 地域と学校が連携・協働できる仕組みづくりを目指します。
- コミュニティ・スクールに関する研修の充実を図り、学校・家庭・地域が連携・協働して子どもたちを育む体制づくりを推進します。
- 地域の教育力を有効に活用し、学習支援等の具体的サポートを得ることで、教育活動の充実を図ります。

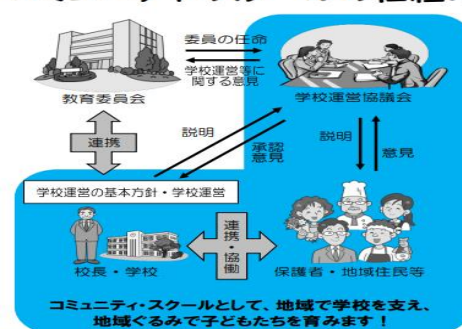
細施策の指標

指標	説明	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
学校と地域や保護者の相互理解(%)	全国学力・学習状況調査の質問から「コミュニティ・スクールや地域学校協同活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。」という質問に「そう思う」と回答した学校の割合	小・中 31	小・中 60

「地域とともにある学校」を目標として



コミュニティ・スクールの仕組み



※地域学校協働活動：地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動。

②外部人材の積極的な活用

■ 現状と課題

- 各学校において、多様な体験活動が展開できるよう学校運営協議会の熟議を通じて、地域住民等との連携を図っています。その結果、地域住民が積極的に学校運営に参画している学校が増えています。
- 多様な経験を持つ外部人材が学校現場で専門的な知識・経験を活かし、より効果的な学校教育を実現するため、より一層の外部人材の活用が必要です。

■ 細施策の方向性

担当課

学校管理課

- 小学校、中学校、特別支援学校が特色ある学校づくりを推進していくため、多様な体験活動が展開できるように関係団体や地域住民と連携し、各学校の学校教育活動の一層の充実を図ります。
- 地域人材を活用し、専門的知識、技能の習得、地域に根ざした教育等、指導力の向上を図ります。

細施策の指標

指標	説明	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
地域人材活用 事業登録者数 (人)	各学校で登録している地域人材の数	859	1,000

※学校運営協議会：教育委員会により任命された委員が、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関。

③学校評価の活用

■ 現状と課題

- 教職員による自己評価、児童生徒やその保護者など外部アンケートの実施、学校関係者評価を実施するなど、全ての市立学校（５６校）で学校評価を実施しています。
- 学校評価をより効果的なものにするため、学校関係者評価の評価者等に対し、学校の方針や実際の教育活動等について、より深く理解してもらう必要があります。

■ 細施策の方向性

担当課

学校管理課

- 学校が設定した目標の達成度や状況を明らかにして、PDCAサイクルによる学校の自己評価、外部アンケート、学校関係者評価を実施します。
- 学校評価を通して、教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と充実を図るとともに、地域に開かれた特色ある学校づくりを目指します。

細施策の指標

活動指標	説明	現状値(令和6年度)	令和12年度
学校評価の活用	学校評価の結果から、学校が設定した目標や教育活動に対しての達成状況等を検証する	学校評価を実施し、学校が設定した目標や教育活動に対しての達成状況等について検証し、学校だより等で周知を図ります。	

④家庭・地域・学校の連携推進

■ 現状と課題

- 子どもサポート委員会は、子どもサポート事業の実施を通じて、学校と地域がより多くの情報を共有し、学校応援団活動や地域の特色を生かした活動を支援しています。
- 子どもサポート事業は、社会情勢の変化に伴い、よりこどもたちの実態に即したものになるように活動の見直しが求められています。

■ 細施策の方向性

担当課

地域教育支援課

- こどもたちが地域社会とのつながりを深め、地域の一員としての意識を育むよう、こどもたちの実態に即した活動をするほか、地域の特色を生かした体験活動の推進などにより、地域全体でこどもたちを育てる取組の充実を図ります。
- 持続可能な運営を実現するために、積極的な情報発信を行い、地域の人材を確保し、地域の多様な人材が教育活動に参加し、こどもたちの成長を支える基盤の強化を図ります。

細施策の指標

指標	説明	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
「地域の特色を生かした体験活動」への満足度(%)	各地区の子どもサポート委員会において、「地域の特色を生かした体験活動」参加者アンケートの満足度を5段階で評価した際、上位3つの評価(満足していると感じる評価)が占める割合	—	70



学校・家庭・地域の連携に関わる研修会

※**子どもサポート事業**：こどもたちの豊かな人間性や社会性など「生きる力」を育むため、家庭、地域、学校及び社会教育施設が連携・協力し、人と人とのネットワークを構築しながら、地域ぐるみでこどもたちを育てる体制をつくることを目的とする。市内を公民館区ごとに14地区に分け、各地区で「地域の特色を生かした活動」「学校応援団活動」「放課後子供教室」の三つの領域を参考にしながら取り組む事業。

※**学校応援団活動**：学校における学習活動、安心・安全確保、環境整備などについてボランティアとして協力・支援を行う保護者・地域住民による活動のこと。

⑤放課後子供教室の推進

■ 現状と課題

- こどもたちが地域社会の中で、心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進するため、地域住民の参画を得て多様なプログラムを実施するほか、放課後児童クラブと連携などにより活動の幅を広げ充実に図りながら、市内18校の小学校で放課後子供教室を実施しています。
- 各放課後子供教室の運営委員やボランティアの確保、開設校増加に伴う職員の増員が課題となっています。

■ 細施策の方向性

担当課

地域教育支援課

- 地域住民の参画を得て、こどもたちが安全・安心に過ごせる放課後子供教室を地域の実情に合わせて導入し、持続可能な運営を目指します。
- 申込み手続きのオンライン化を進め、運営委員や事務局の事務負担を軽減し、地域の人材確保に向けた情報発信の強化を図ります。
- ボランティアの協力を得るために、近隣の高校・大学への働きかけを行うほか、研修会の開催などにより各教室間での情報共有やスキルアップ、ボランティア同士の交流の促進を図ります。

細施策の指標

指標	説明	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
放課後子供教室実施校数 (校)	放課後子供教室を実施している市内小学校数	18	32



地域住民との体験活動(モルック)



放課後子供教室研修会

※放課後子供教室：こどもたちが放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動ができるよう、地域住民等の参画を得て、放課後に全ての児童を対象として、学習や体験・交流活動などを行う事業。

⑥学校部活動の地域連携・地域展開

■ 現状と課題

- 市立中学校における部活動に対し、部活動指導員※の配置や、顧問とともに部活動の運営を補助する部活動支援員※を配置することで、部活動の充実を図っています。
- 部活動の意義を理解し、適切に指導をすることができる人材の確保が課題です。

■ 細施策の方向性

担当課

教育指導課

- 学校部活動の地域連携の取組として、学校教育法施行規則に規定する部活動指導員や、顧問と協力して専門的な指導が行える地域の人材（部活動支援員）を配置することで、生徒の活動機会の確保を図ります。
- 広報活動等を推進することで、人材の確保に努めます。

細施策の指標

活動指標	説明	現状値(令和6年度)	令和12年度
部活動指導員・部活動支援員の配置状況	市立中学校全校における部活動指導員・部活動支援員の配置及び人材確保の状況	生徒の活動機会の確保や部活動の充実を図るために、地域と連携しながら、全ての部活動に部活動指導員・支援員を配置できるよう人材確保に努めます。	

※部活動指導員：

※部活動支援員：